

# Case Study

支部ケース・スタディ

北関東支部

## 地域の高校球児を全力応援 『夏季高校野球 4球場生中継』

(株)JWAY

マーケティングリサーチ室

寺家 通浩



### ローカルテレビ局が無い県のケーブル局

(株)JWAYは、2005年3月に茨城県日立市で開局し、翌年には日立市内の全世帯を網羅する78,000世帯への幹線設備を敷設するとともに、『地域にとって無くてはならない会社』を目指し、事業を続けて参りました。

また2019年からは、日立市内の接続率が40%となる頃に合わせて、隣接する東海村・ひたちなか市へとサービスエリアを延伸しており、2市1村全域へのサービス提供をできるよう準備を進めております。

そして茨城県と言えば、ローカルテレビ局が全国で唯一存在しない県であり、だからこそコミュニティ番組の重要性を高くご評価いただけるものと考えておりました。

### コミュニティ番組への視聴者のニーズ

さて、これまでローカルテレビ局が存在していなかった地域でのコミュニティ番組は、お客様から大きな評価を得る、と思いきや、当初は「知っているタレントを出して欲しい」「バラエティとか面白い番組をやって欲しい」など、この地で生まれてからキー局だけを観続けた方々の趣向は、当社側の思惑とは大きく乖離した状態からスタートしました。

今でこそ「地域情報を観られて助かっている」などの応援の言葉もいただきますが、当時は、どこから手をつけていけば、ご加入者の皆様にご覧いただけるのか悩み続けていたことを思い出します。

### 高校野球中継への挑戦

そんな時に新しいコンテンツとしてスタートしたのが夏季の高校野球中継でした。

当社は、開局初年度より【日立市民球場】からの生中継を実施しておりましたが、日立市内8校の試合が必ずしも地元の日立市民球場で行われるわけではなく、また4回戦まで実施されていた試合が2回戦までしか実施されなくなったこともあり、ご加入者の評価としては今一つ盛り上がりには欠ける状況が続きました。



通常の生中継(カメラ4台使用)を行う球場には中継車両を常駐



中継車両 車内の様子



1塁側カメラ



実況ブース

その後、ご加入の皆様は「地元の高校の試合を観たいのではないか」という方向に転換をし、【日立市民球場】からの生中継中止を英断すると共に、地元8校が勝ち続ける限り全ての試合を追いかける決断をしました。

その当時は、茨城県内全6球場それぞれで行われる試合を、カメラ1台・スタッフ1名(実況なし)で撮影し、試合後すぐに局に持ち帰ると、そのまま当日夜に放送(録画放送)を実施していました。

この期間が6年ほど続きましたが、足を運ぶことが難しい遠方の球場で行われる試合を、テレビでご覧いただけることもあり、徐々に地域内での評価が上がってきた時期になります。

## 視聴者ニーズの変化

【日中の試合を当日夜に放送】する形式は一定の評価を得ましたが、その後、視聴者のニーズは徐々に移り変わり「野球(スポーツ)は生中継で観たい」「結果が分かっている試合は観たくない」「実況くらい付けろ」というお問合せを頂戴するようになってきました。

クレームという捉え方もある一方、当社が高校野球というコンテンツを放送し続けてきたからこそ、「1ステージ上の要求」が出てきたものと受け止め、2014年に新たな展開をすることとなります。

その頃には、当社としても少しずつ体力が付いてきたこともあり、【日立市民球場からの生中継(1~2回戦)】を再開すると共に、「地元8校の試合(他球場での試合)をお届けし続けたい」という思いを実現するため、【生中継(1球場)+地元8校の録画放送】という体制を取るようにしました。

## サービスエリア延伸に合わせた変化

そして前述の東海村・ひたちなか市へのエリア延伸に合わせ、2020年より【日立市民球場】・【ひたちなか市民球場】・【ノーブルホームスタジアム水戸(水戸市民球場)】・【J:COMスタジアム土浦(土浦市民球場)】の全4球場からの生中継に乗り出すこととなります(※【J:COMスタジアム土浦】の映像は、J:COM茨城様の生中継映像を配信)。

放送するにあたってのポイントは、次の通りでした。

- ・高校野球中継の試合数を、より多くお届けしたい。
- ・地元の全15校(2市1村)の試合も(試合結果が分かる瞬間をご覧いただけるよう)生中継でお届けしたい。
- ・これらを当社1局の出来る範囲でお客様に届けたい。

本来、高校野球中継では、複数台のカメラや実況付の放送でお届けすべきですが、限られたスタッフ数・放送設備の中でこれらを実現するために、下表のような体制で放送することにしました。

球場	カメラ	実況	スコア等	
日立	4台	あり	テロップ	
ひたちなか・水戸	各1台	なし	PinPで挿入	2021年は一部実況あり
土浦	カメラ複数台	あり	テロップ	J:COM茨城様より提供

(生中継は全てSTBの専門チャンネルで放送、地上デジタルの自主放送chで再放送)

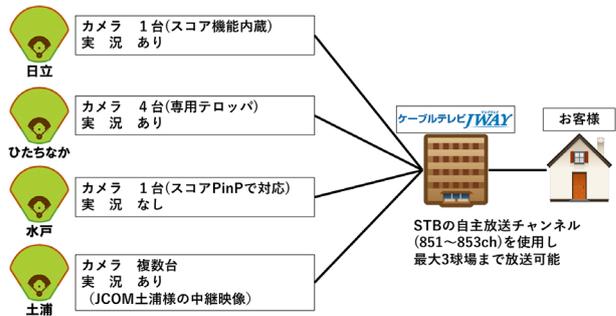
一方で、前述のご意見である【生中継】は実現できるものの、「実況を付ける」ことができない球場もあり、再びご意見を頂戴することになるのではないかと不安を抱えて放送を行うこととなりました。

が、結果は杞憂でした。カメラ1台で中継している球場では、球場に掲示されているスコアボードのスコア部分を、もう1台のカメラで切抜き、画面上に表示(PinP)したところ「実況が無くても試合の状況が伝わるようになった」ようです。お陰様で現状は1件のご意見をいただくことも無く、お楽しみいただけているようです。

改めて、お客様からのご意見そのままを聞くだけではなく、あらゆる手段によって、本来の問題点を解決していくことが重要であることを実感した出来事でした。

そして本年2021年には、カメラ4台で生中継する球場を【日立市民球場】から【ひたちなか市民球場】(1回戦～4回戦まで実施)に変更し、中継試合数を拡大しているところです。

### 2021年 中継イメージ



スタッフ1名での中継



1名中継に向けた回線の接続試験



各球場からの映像を本社サブに集約

## 魅力度最下位県でのコミュニティ番組

さて高校野球中継の生中継試合数も増え、東海村・ひたちなか市の7校も漏れなく放送したことで、さぞかし高い評価につながったと思われるかもしれませんが、少し予想を外れた結果となりました。

日立市内からのお問合せは例年通り多くのお問合せをいただいた一方、東海村・ひたちなか市の方からの問合せは、残念ながら目立った反応を得ることはできませんでした。

確かに強豪校が少ない地域ではありましたが、その反応の薄さに、再び悩みを抱えることとなりました。

幾つかのヒアリングと過去の当社の状況を振り返ったとき、次のような仮説を立てました。

- ・ローカルテレビ局が無かったため高校野球の茨城大会を観たことが無かった。
- ・そのため高校野球を観る文化が無かった。

当社は、2005年の開局当時と同じように、高校野球中継をご覧いただきつつ地域情報を得られることの利点を伝える段階を、再び繰り返していく必要があります。

茨城県は【都道府県魅力度ランキング】7年連続最下位(2020年には最下位を脱し42位)という不名誉な結果を受けておりますが、この原因の一つは「ローカルテレビ局が無かったことで地元情報に触れる機会が少なく、魅力を感じるタイミングが無かった」ということではないか、と考えています。

これからも、粛々と地元情報を伝えつつ、地域で生活する皆様の「便利で楽しい生活」の一助となるべく事業展開をして参りたいと思います。